令和 4年 9月

木村良子　学位論文審査要旨

主　査　　梅　北　善　久
副主査　　海　藤　俊　行
同　　山　元　　修

主論文

Dual role of basophils in the pathogenesis of bullous pemphigoid elucidated by pathological and ultrastructural studies

（病理学的・電子顕微鏡学的研究によって明らかになった好塩基球の2面性は、水疱性類天疱瘡の病態に深く関与する）

（著者：木村良子、杉田和成、堀江享史、山元修）

令和4年　European Journal of Dermatology　doi:10.1684/ejd.2022.4269

参考論文

1. Basophils are recruited and localized at the site of tick bites in humans
（ヒトマダニ刺症では好塩基球が皮膚に遊走し局在する）
（著者：木村良子、杉田和成、伊藤亜矢子、後藤寛之、山元修）
平成29年　Journal of Cutaneous Pathology　44巻　1091頁～1093頁

2. Cytophagic histiocytic panniculitis associated with myelodysplastic syndrome
（骨髄異形成症候群に伴った血球貪食性組織球性脂肪織炎）
（著者：木村良子、杉田和成、後藤寛之、山元修）
平成31年　Acta Dermato-Venereologica　99巻　97頁～98頁

3. Recurrent phaeohyphomycosis due to *Phaeoacremonium alvesii* identified with internal transcribed spacer and beta-tubulin gene sequencing
（ITSとβチューブリン遺伝子の塩基配列解析により同定した*Phaeoacremonium alvesii*による再発性黒色菌糸症）
（著者：木村良子、山田七子、吉田雄一、伊藤亜矢子、堀江享史、安澤数史、望月隆、山元修）
令和2年　Acta Dermato-Venereologica　doi:10.2340/00015555-3395

審　査　結　果　の　要　旨

本研究は水疱性類天疱瘡患者の皮膚において、紅斑（炎症期）と水疱（炎症収束期）が同時多発的にみられることに着目し、水疱性類天疱瘡の炎症の活性化と収束における、好塩基球の役割を病理学的・電子顕微鏡学的に解析した。その結果、紅斑期のみ、好塩基球数は好酸球数と正の相関がみられ、電子顕微鏡学的にも細胞間接着を確認した。水疱期では、好塩基球数が有意に増加し、好塩基球とM2マクロファージの細胞間接着が紅斑期に比べて多く見られた。本研究は、好塩基球が好酸球やM2マクロファージとの細胞間接着を介して、水疱性類天疱瘡の炎症の活性化と収束に関与していることを示し、明らかに学術水準を高めたものと認める。